祖父のお米の味

広島大学附属三原小学校六年　中野瑛稀

祖父の作ったお米は、食べたらすぐに分かる。どうしてかというと、祖父のお米はあまくて味がこいからだ。ぼくには、お米の味から祖父のやさしさが感じ取れる。ぼくは祖父のお米が大好きだ。

ぼくの祖父は会社に勤めながら、休みの日や仕事の合間に米作りをしている。祖父の田んぼは七枚あって、一枚が十五アールだから百五アールある。プール約三十六個分だ。

ぼくは広島県に住んでいて、祖父は愛知県に住んでいる。年に数回しか会えないけれど、祖父が田んぼの仕事を熱心にしている姿をたくさん見かける。例えば、早朝五時ごろに起きて、作業服に着がえて、長ぐつをはき、田んぼの水の様子を見に行く。ぼくがビックリしたのは、雨の日でもいつもと同じように田んぼに出かけて行ったからだ。ぼくだったら雨の日はできるだけ外には出かけたくない。

ぬれるのがいやだからだ。でも祖父は、雨の日でも田んぼの様子を見に行く。雨の日に出かけた祖父は、びっしょりぬれて帰ってくる。ぼくは祖父がかぜをひかないか心配になる。心配したぼくが

「おかえり。」

と言うと祖父はニコニコ笑って、

「ご飯食べるかね。」

とやさしく言ってくれる。人にほめられなくても、米作りを努力する祖父はすごいと思う。

夏の夕方、まだ暑い時間でも田んぼに行く。田んぼの水の管理はとても大切なことだそうだ。田んぼに使う水は地域の人みんなで使うものだから、一番下流の人の田んぼにまで水が運ばれるように、それぞれの人が考えて水路の管理している。それに、その日の天気によって田んぼに入れる水の量を変えている。祖父は、毎日の天気を記録して、翌年からの資料にしていた。それぐらい、米作りには水の管理が大切な人だとおどろいた。

コクヨ　ケ-10　20×20

ぼくは、米作りは田起こし、代かき、田植え、稲かりのイメージだった。でも、実際は植えてからも草取りや、毎日の水の管理をしたり、大変な作業がたくさんあったことを祖父を見て知った。

ぼくは祖父の大変さを知ってから、祖父のお米を自然と感謝しながら食べるようになった。

いつも秋に送ってくれる祖父の新米は、きれいな米袋に入っていてその袋には祖父の作「たお米の品種と祖父の名前が八ンコで押されている。ぼくは、八ンコの文字を見て、祖父ががんばった証だと感じた。とてもかっこいいと思った。